

22人に聞きました

今年の漢字は？



本喜美

太陽クラブ
人と関わり、学び、視野を広げ、自分自身の土台を耕す一年にします。

耕



奥村 忠彦

東近江市民クラブ
多くのご縁と市民の皆さまの支えという恵にめぐまれ、学びと行動を重ね一年感謝の気持ちで進みます。

恵



山下 敦司

公明党
一つ一つの事柄に対し、自己研鑽に励み、皆様の負託にお応えできるよう働いてまいります。

惟



澤居 寛明

東近江市民クラブ
議員2年目。学びを力に変え、市政を一般上のステージへ。市民とともに、未来へ大きく跳ね上がる一年に。

跳



森 鉄兵

東近江市民クラブ
与えられた職責を尽くす一年に。現場で声を聞き、できることを一つずつ形にし、やり残しなく形にしたい。

尽



中村 和広

万葉会
妥協や感情に流された主張ではなく、互いに分かり合って調和や協調していくことを大切にしていきます。

和



小椋 昌巳

無党派
当選時の初心を忘れず、市民の皆様の声に寄り添いながら歩む一年にする。

初



山本 直彦

東近江市民クラブ
自分自身の能力や知識を向上させるために、自ら進んで主体的に切り開き、磨きをかける一年にする。

拓



青山 孝司

東近江市民クラブ
健康な体が人生や仕事、あらゆる活動の最も大切な土台となります。基礎体力強化で頑張ります。

健



鈴木 則彦

東近江市民クラブ
老若男女、市民の皆さん誰もが描ける「中心市街地」。これからは盛り上げてまいります。

街



西村 和恭

東近江市民クラブ
「やわらく」「おだやか」「のどか」「以和為貴」和顔愛語。名の一字。自分らしくを費します。

和



田井中 丈三

東近江市民クラブ
「農は國本」農村の石礫によく刻まれています。農業が国家の基盤という意味で、食糧は命を紡ぐ源です。

農



吉坂 豊

公明党
右・左だとイデオロギーに偏るのではなく、立党精神「大衆とともに」「現場第一主義」の中道政治で働きます。

中



戸嶋 幸司

太陽クラブ
とにかく聴く！市民の声を聴いて聴いて聴きまくる一年にしたいと思ひます！

聴



西崎 彰

東近江市民クラブ
この漢字は「そしじ」と読みます。意味は愛、感謝、調和を表し、人間としての存在意義を表す字です。私が目指す人間像です。

窳



安田 高玄

太陽クラブ
生活を平穏無事に災害の少ない暮らしを望む「平」全ての人が平和でありたい「平」です。

平



西澤 由男

東近江市民クラブ
新しい時代の幕開けを感じる新春。たとえ立ちはだかる困難にも、覚悟新たに希望をもって挑戦していこう。

旭



市木 徹

東近江市民クラブ
足元を固め確実に歩んでいくことが目標です。「履践・踐行」安心の暮らしと市の成長をみな様にお届けします。

踐



山中 一志

日本共産党議員団
様々な困難に満ちた現代。困難の原因を自らの類似ととらえ、その縁起を把握・克服する解脱・涅槃への道を志一つに求めています。

志



大橋 保治

東近江市民クラブ
何事にも心をもって接したいです。自分自身には厳しい心を持って、一心不乱頑張ります。

心



田郷 正

日本共産党議員団
世界では国際法を無視、国内でも憲法無視の政治が横行。市は森の文化博物館新設一直進。市民の声を聴け。

怒



東近江市民クラブ
森里川湖の恵みを次の世代に



水源地となる山林を守るための条例制定の必要性について見解は。
本市では、カーボンニュートラル社会とネイチャーポジティブの実現を目指して「東近江市100年の森づくりビジョン」を策定し、100年先を見据えた森林づくりや資源利用を進めています。地域の56%を占める

市内で次々と建設されるメガソーラーについて、部局横断による本市独自のメガソーラー設置規制条例が必要と考えるが見解は。
現在、国ではメガソーラー設置に伴う諸課題を踏まえ、太陽光発電事業のさらなる地域共生・規律強化に向けた議論が進められています。こうした国の動向を注視しつつ、メガソーラーを規制する条例の制定については、環境、防災、森林保全などの観点を踏まえながら慎重に検討していきます。



森林は、水源かん養機能だけでなく生物多様性や歴史、文化の創造など多面的機能を有しており、未来の世代に引き継いでいくべき大切な財産です。
条例制定については、外国資本などによる土地取得に対する国の新たな規制などの動向も注視しながら、森里川湖がつながる豊かな東近江市域の根源である森林を次の世代につなげていくよう研究をしていきます。

令和7年度 東近江市議会BCP研修報告

東近江市議会では、南海トラフ巨大地震の発生確率が高まっている現状を踏まえ、災害発生時に議会として迅速に機能を維持するためのBCP（業務継続計画）研修を実施しました。
講座では市周辺に存在する活断層の特徴や、直下型地震・海溝型地震について専門的な説明を受け、地域が直面し得る災害リスクを改めて確認しました。
特に、一昨年1月の石川県での地震直後の映像を視聴したことで、災害を「自分ごと」として捉え、地域全体で備える姿勢の大切さを改めて確認しました。



また、実技研修では、避難所で実際に使用するテント式トイレ、ワンタッチテント、簡易ベッドの組み立てを体験し、設置の手順や使用感を確かめました。災害時のトイレ不足が避難生活に与える悪影響について説明を受け、災害用トイレの備えの重要性を強く認識しました。
議会として災害対応力を高めることは、市民の安全を守るための重要な責務です。市民の皆さまにも、日頃からの備蓄や地域での声かけなど、できることから防災への取り組みを進めていただければ幸いです。

